



保健学科長挨拶

寒さ厳しい中でも、保健学科の中庭では、草木の芽吹きを感じる季節になりました。睦眉会の皆さまにおかれましては、日頃より母校・徳島大学医学部保健学科の教育・研究・学生支援に多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

今年度より、保健学科長を拝命しました。保健学科の設立から四半世紀、これまでに巣立った多くの卒業生が、県内外さらには海外で、看護師、保健師、助産師、診療放射線技師、臨床検査技師、養護教諭などの医療専門職として、そして地域の健康を支えるリーダーとして活躍されています。その確かな歩みが、現在の保健学科の礎であり、毎日キャンパスに集う学生たちの目標でもあります。

今日、医療や保健の現場は、急速に変化しています。AIやデジタル技術の進展、感染症の影響、少子高齢化や地域格差など、課題は多様化、複雑化しています。その中で本学科は、幅広い教養と専門分野に関する学問知識を修得し、人間性・科学性及び国際性を身につけた医療の担い手として、チームの中で役割を果たせる医療人の育成を目指しています。また、各専門分野で指導的立場に立ち、保健学の発展に寄与する資質能力や、基礎理論から高度な臨床応用に至る統合的な学習経験を基に、自らの能力・専門性を高める



徳島大学医学部保健学科長
徳島大学大学院保健科学研究科長

奥田 紀久子

ことができる創造的思考力を養うために、常に新しい教育を模索し、取り組んでいます。

中でも、学術協定を結んだフィンランドやフィリピンなどの大学との学術交流において、学生たちが、異文化の中で共通する健康課題やその解決に向けて取り組む力を養っていることは大きな成果と言えます。保健学科の国際交流に関して、睦眉会から多大なるご支援をいただいていることに、この場を借りて心から御礼を申し上げます。

今年度は、コロナ禍を経て、再び活気を取り戻した保健学科のキャンパスに、127名の新入生を迎えました。教養科目や専門科目の学修に加え、多職種連携教育プログラムやSIH道場などへの参加、また部活動やサークル活動、大学祭、ボランティア、アルバイト、阿波踊りなど、大学生生活を有意義に過ごしています。上級生は実習や実験、卒業研究、国家試験対策など、自分のキャリア形成に向けて積極的に取り組んでいます。

何よりも、卒業生の活躍は、保健学科の誇りであり、学生にとって未来の希望です。今後とも、母校への温かなご支援、そして後輩たちへのご助言を賜りますようお願い申し上げます。



会長挨拶

—AI との共存で必要なこと—

医療現場にAIが必要な理由は、医療業界の3つの課題①医療従事者の人材不足と過重労働、②医療の地域格差や診療科の偏り、③世界中から報告される科学的知見や文献の増大です。医療AIの活用によって、①医療従事者の人材不足と過重労働では、記録や書類作成などの患者さんに直接かかわらない業務をAIにまかせることで、医療従事者の残業時間が短縮され、労働環境を改善できると期待されています。②医療の地域格差や診療科の偏りでは、人口の少ない地域において医師不足が深刻であり、その地域に住む方が必要な医療を受けられない可能性が高まっています。医療AIをうまく活用することで、患者さんの居住地にとらわれない環境が整うと予想されています。③世界中から報告される科学的知見や文献の増大では、医療分野では多くの研究や文献が発表され、医療の発展に役立っています。しかし、2017年から3年間で登録された臨床医学の論文数は、日本だけでも19,808件です。そこで医療AIを導入すれば、情報を効率的かつ正確にまとめられます。

その中で、医療従事者とAIが共存し互いに協力し合って働いていくとしたら、医療従事者が一番意識しておきたいのは人の心を読み取り、病んでいる患者さんに寄り添うことなのではないでしょうか。AIがいくら進歩しようと、医療従事者の人に寄り添う



徳島大学睦眉会会長
徳島大学医学部附属看護学校28期生

久米 博子

心はいつまでたっても必要とされるはずで。

さて、睦眉会は、徳島大学医学部保健学科、同大学院保健科学研究科、ならびに前身校を含めた同窓会です。平成8年に発足し、会の目的は、会員相互の親睦及び母校の発展を図り、保健医療の向上に寄与することです。会員には、卒後、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師、助産師、保健師等の免許を取得し活躍する正会員、学生は準会員、教職員等の特別会員で構成されており、令和7年4月現在の正会員数は、8,076名となっております。

睦眉会では、令和7年4月7日にアスティとくしまで令和7年度入学式が挙行された後、蔵本キャンパスにて、令和7年度睦眉会主催新入生歓迎昼食会を開催しました。会場は、感染対策として、4会場に分かれて行いました。会長挨拶は、事前にZoomで撮影し当日、各教室で担当の先生方に放映していただきました。一番多くの学生が集まる看護学専攻の大講義室では、直接皆さんに会って挨拶を行いました。新入生の方々は、新しい環境での挑戦が待っています。皆さんの成長を期待しています。

結びとして、皆さまのご健康とますますのご活躍をお祈りいたしますと同時に、同窓会の運営につきまして、今後、更なる睦眉会の発展のために、引き続きご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

同窓生通信

新しい医療の誕生を支えたい

徳島大学医療技術短期大学部看護学科7期生
徳島大学病院 総合臨床研究センター

明石 晃代

私は病棟看護師の経験を経て、現在は臨床研究コーディネーター（Clinical Research Coordinator：CRC）として、主に治験の支援を行っています。治験とは、新しい医薬品や医療機器、再生医療等製品の有効性と安全性を確認し、国から製造・販売承認を得ることを目的として行われる臨床試験です。ドラマでは、CRCが製薬企業や治験依頼企業側と強く結びついているような描写がされることもありますが、事実とは異なっています。CRCは治験参加者の安全や権利を守り、法規制を遵守して、信頼に足るデータを得ることを重要な職務としています。複雑な内容の治験が増加し、国際的にもスピード感が求められる中、院内関連部署との十分な調整が、円滑な治験実施につながります。

私は、依頼された治験が、医薬品や医療機器、再生医療等製品として保険診療下で使用可能となることにやりがいを感じています。その経験を踏まえ、現在は部署の管理者として、人材育成を担っております。当セン

ターへCRCとして異動した看護師は、今までの経験とあまりに業務内容が違うため、一から習得することに心が折れそうになる様子を目にします。しかし、もがきながらも看護師として培った知識や技術が役立つことに気づき、看護職の視点を生かして活躍しています。

仕事は忙しいですが、心身ともに元気に過ごしております。今年はどうも、次女も社会人になり親の扶養から巣立ちます。休日には夫婦で旅行に出かけ、リフレッシュして日々の業務に向き合っています。実は、私の義母もこの睦眉会会報の読者（徳島大学医学部附属看護学校20期生）であり、大先輩なのです。

これからも看護の学びを礎に、新しい医療の誕生を支える力になりたいと考えています。皆さまのご健康とさらなるご活躍を心よりお祈り申し上げます。

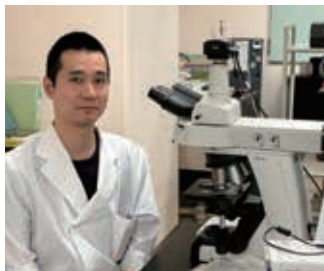


松江 宍道湖にて 夫と共に

皆と一緒にさらなる挑戦を

徳島大学医学部保健学科検査技術科学専攻9期生
徳島大学病院 医療技術部 臨床検査技術部門

井上 雄介



私は2014年に保健学科検査技術科学専攻を卒業後、徳島大学病院に入職、血液検査室に配属となりました。その後、2017年に（保健学科ではなく申し訳ありませんが）医科学専攻の大学院に進学し、働きながら研究活動の基礎を教わりました。卒業後は経験を活かし、血液検査を中心とした業務・研究を行っています。

早いもので入職してから12年が経過しました。日々臨床現場にいと、医学の進歩の早さを実感します。私が専門としている造血器悪性腫瘍の領域においても、分子標的薬やキメラ抗原受容体（CAR）-T細胞療法等の免疫療法の発展、造血器悪性腫瘍の網羅的遺伝子パネル解析の実装など、私が入職した頃とは風景が一変し

ています。これに伴い、当院検査部においても、治療後の極僅かな腫瘍細胞の残存検出や投与したCAR-T細胞の解析等、今まで以上に高度な専門性が要求されつつあります。

もう一つ一変した風景として、私が配属されている血液検査室です。血液検査室でこれまで指導していただいた、先輩・上司の方々が退職・転職され、私が現場責任者を務めるようになりました。業務では私の判断に委ねられることも増えていますが、頼りになるスタッフに支えてもらっています。原稿を執筆している2025年は、上記の新たな検査法の体制確立などに奔走した、私にとって一つの節目の年になりました。スタッフが、そしてこれから入職される方々が自分の良さを発揮でき、輝ける場所を作ることができるよう、そしてその先にある患者さんの力になれるように、これからも自分に厳しく精進していきたく思います。これまで検査部を引っ張ってこられた方々の伝統・意志を忘れることなく、臨床・研究を始め様々なことに失敗を恐れず、皆と一緒に挑戦していきたく思います。

これまで温かく見守っていただき、私の臨床検査技師としての礎を作ってくださいました全ての皆様にご場をお借りして感謝申し上げます。

助産師を身近に感じてほしい

徳島大学助産学専攻科 3期生
徳島大学病院 産婦母子センター

小路 優



私は現在、徳島大学病院産婦母子センターで助産師として勤務しております。私は助産師という仕事が大好きです。学生時代の実習はとても緊張したし、辛いこともありましたが、しかし、赤ちゃんが産まれる瞬間に立ち会える仕事につけるなんて、そんな素敵な仕事がこの世にあるなんて、やらないわけにはいきませんでした。赤ちゃんが産まれるまでの時間は妊婦さんにとって本当に辛い時間です。しかしその時間が私は大好きで、いかに辛く感じないように前向きに、さらには産むぞ！という気持ちと一緒に持っていくとき、産んだ瞬間の母の清々しい顔が本当に美しく神秘的な空間が広がります。そして赤ちゃんの産声が分

娩室に響き渡りみんなの安堵感が伝わる瞬間、からだの深部から喜びが沸き上がります。本当に素敵な時間が流れるのです。私は助産師となり17年になりますが、そんな出産に至るまでの背景や妊婦さんを取り巻く家族環境には本当にいろいろあって、喜びばかりでない妊娠・出産もたくさんあることを目の当たりにしてきました。助産師とは妊娠したことがきっかけで会うことが多いと思いますが、妊娠前から、いやもつと幼いころから身近にいる存在でありたいと思っています。そして助産師は、“望まない妊娠”や“育てられない”をできる限りなくせる存在の一人だと感じています。女性の一生を左右する妊娠です。正しい知識を伝える事で、すべての女性が幸せに暮らしていけるお手伝いができます。そのためには妊娠のもっとも前から出会える助産師がたくさん活躍できる場が増えるといいなと思っています。

末尾ではありますが、先輩、後輩の皆様のご活躍、そして睦眉会の益々のご発展をお祈りしています。

CTea

徳島大学医療技術短期大学部診療放射線技術学科12期生
徳島赤十字病院 放射線科部

赤川 拓也

私は卒業後、4年の遊学期間を経て、2006年4月から徳島赤十字病院で診療放射線技師として勤務しています。現在はCT検査を主な業務としており、日々CT道を極めることを目指して精進しています。診療放射線技師の数ある仕事の中からCTを志したきっかけは、10代前半にテレビで見たエジプトのミイラをヘリカルCTで撮影し、3D画像から古代の謎を解明する映像に衝撃を受けたことです。この衝撃は現在も継続しており、臨床現場においてCTから得られた情報を最大限に発揮するには3D画像でどのように表現すれば良いか、また逆に表現方法に合わせた撮影方法の最適化の検討など、自身の現在のモチベーションに大きく寄与しております。

また精神面で大きく影響を受けたものとしては、遊学期間中に出会った茶道でした。静寂の中に美を見出し、作法の一つひとつに精神を込める茶道は、一見すると現代のスピード感とは真逆にあるかもしれませんが、しかし、茶道が追求するのは「一期一会」という一瞬の重みであり、その瞬間にどれだけ深く向き合えるかという精神の密度だと感じます。日々の業務の8～9割を占める標準的な検査と、学んだ全ての知識と経験をフルに活かして臨む難易度の高い検査では、診

療放射線技師としての負担や内容に差があるかもしれませんが、しかし、検査を受けに来る患者さんにとっては、それが一生に一度の大切な出来事である場合もあります。たとえ標準的な検査であっても、患者さんと接するわずか2～3分の時間の中で、「一期一会」を意識することを日々心がけています。

さらに茶道には「独座観念」という言葉があります。これは茶会が終わり客が帰った後、すぐに片付けを行わず一人で茶席に戻り、その日の一瞬一瞬の重みに思いを馳せる境地を説いたものだそうです。この実践の難しさは身をもって実感しており、一日の業務で疲れた後に研究活動を行うことにも似ています。まだ道半ばではありますが、臨床現場での一瞬一瞬を大事にしつつ、研究活動を行うことでCT道に精進していきたいと考えています。



学会における質疑応答の様子 (著者 左)

活躍する卒業生



徳島大学ホームページ、徳島大学びざん会の「ニュースレター」のコーナーに掲載されています。



徳島大学医学部保健学科看護学専攻 平成21年卒業
厚生労働省医政局地域医療計画課医療安全推進・医務指導室 医療安全対策専門官

駒形 和典 (こまがた かずのり)

駒形氏は、平成21年に徳島大学医学部保健学科看護学専攻を卒業され、同年に東京大学大学院に進学されました。同大学院では、創傷やスキンケア等をキーワードに基礎研究から機器の開発、臨床研究まで幅広く取り扱う研究室の一員として、失禁に関連する皮膚炎の予防をテーマに研究に取り組みされました。

同大学院を修了後、平成23年に東京大学医学部附属病院へ看護師として就職し、脳神経外科と整形外科の混合病棟へ配属されました。脳神経外科の患者さんに対する看護は駒形氏が看護師を志すきっかけとなった分野であり、徳島大学在学中の卒業論文のテーマでもあったことから、精力的に日々の業務に取り組み、看護師としての基礎となる経験を数多く積まれました。

平成26年には東京大学大学院の助教に着任し、学生に対する看護教育を行いながら、超音波(エコー)検査を用いた看護技術の開発や、病院に勤務する看護師の多様性に着目した研究に従事されました。

略 歴

- 平成21年 3月 徳島大学医学部保健学科看護学専攻卒業
- 平成23年 3月 東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻修士課程修了
- 平成23年 4月 東京大学医学部附属病院 看護師
- 平成26年 4月 東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻 助教
- 平成29年 4月 東京大学医学部附属病院 看護師
- 令和 5年 4月 厚生労働省医政局地域医療計画課医療安全推進・医務指導室 医療安全対策専門官

現在に至る

その後、平成29年に再び東京大学医学部附属病院にて看護師として勤務され、神経内科や大腸・肛門外科等の病棟において、これまでのご経験を活かし、患者さんやご家族に対する呼吸器管理や人工肛門(ストーマ)のケアといった退院支援等にご尽力されました。

令和 5年からは厚生労働省に医療安全対策専門官として着任され、医療機関において医療が安全に提供されるための政策立案等を行うとともに、医療関係者や国民に対する医療安全の普及啓発活動にも携わられています。昨年度には母校の徳島大学において医療安全施策の動向についてご講演される等、今後益々のご活躍が期待されています。



研究室紹介

放射線腸線維症の克服を目指して

徳島大学大学院医歯薬学研究部 医用理工学分野 講師

西山 祐一

医用理工学分野（分野長 森田明典 教授）では、細胞生物学的手法や分子生物学的手法を用いて放射線科学の課題に取り組んでいます。主に細胞死制御に重要な初期応答過程のメカニズム解明、および分子標的創薬による放射線細胞死制御法の確立を目指しています。特に、多数の共同研究者の先生方とともにp53標的創薬研究に長年取り組んできました。がん抑制因子として知られるp53をコードするTP53遺伝子の異常は多くのがんでもっとも高頻度に認められ、がん症例の半数以上にTP53変異があります。したがって、p53を作用標的として細胞死制御を可能にするp53制御剤は、がん放射線・化学療法における正常組織保護（副作用低減）手段としての応用が期待され、がんゲノム医療の推進に大きく貢献することが期待されています。

私は近年、腹部・骨盤部放射線治療における重篤な晩期有害事象のひとつである腸線維症の研究に注力しています。その病態として、放射線による腸血管内皮の損傷をきっかけに、大量の白血球が腸粘膜下層へ遊走し、持続的な炎症反応によって線維化が生じることが動物実験により明らかになりました。そして、当分野で見出したあるp53制御剤がこの線維化を顕著に防ぐことがわかり、その作用機構解明と医療応用を目指して研究室の学生とともに取り組んでいます（図）。

当研究室では教員、学部・大学院生が個々のテーマに対して日々熱心に取り組んでいます。ここ数年では我々の研究に興味をもって研究職を目指す留学生も受け入れています。本研究室に所属する学部生・大学院生の多くは、診療放射線技師として医療現場で活躍しております。その際、放射線の生体影響を科学的に理解し、安全かつ効果的に放射線を用いることは、医療に貢献するうえで欠かせません。その意味で、放射線生物学は極めて重要な学問領域です。当研究室で最先端の放射線生物・創薬研究に携わってみたい学生の方がいましたら、気軽に研究室にお越しください。また、共同研究などご提案がありましたら、是非ともご連絡いただけますと幸いです。

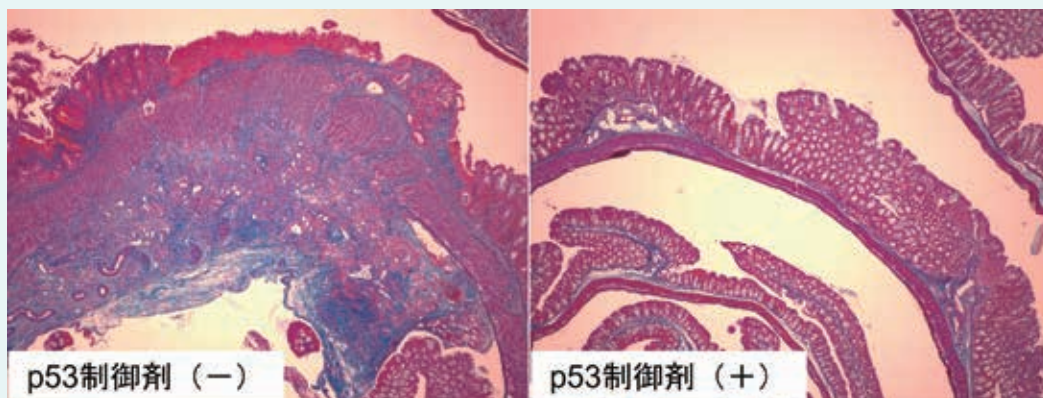


図 p53制御剤による放射線腸線維症の抑制（アザン染色）

国際交流活動報告

メトロポリア応用科学大学(フィンランド)との国際交流活動について

徳島大学医学部保健学科国際交流委員長
徳島大学大学院医歯薬学研究部 地域看護学分野 教授

岡久 玲子

徳島大学睦眉会の皆様におかれましては、平素より、保健学科および保健科学研究科の国際交流活動に多大なるご協力をいただき、誠にありがとうございます。今年度の国際交流活動として、2011年より学部間学術協定を締結し相互の国際交流を継続しているフィンランドのメトロポリア応用科学大学との交流についてご報告させていただきます。



保健学科では、2025年度も8月から9月に保健学科看護学専攻2年生4名の留学生を派遣いたしました。本留学プログラムは、2023年度留学生より、「国際看護活動論」で単位認定(1単位)しており、現地での留学プログラムに加え、徳島大学での事前学習、オンラインコラボレーション、留学成果発表会を含む内容となっております。

留学前には、「国際看護活動論」の履修学生をグループに分け、「フィンランドの基本情報」、「メトロポリア応用科学大学の基本情報」、「フィンランドの保健医療福祉と看護について」をテーマに事前学習を行い、英語によるプレゼンテーションで学びの共有を行いました。

留学中は、英語による看護専門科目の受講、医療施設の見学、留学先大学の学生・教員および他国からの留学生との文化交流など、充実した留学生活を送りました。メトロポリア応用科学大学での看護専門科目の授業・演習では、シミュレーション教育を取り入れており、高機



能シミュレーターの使用、デブリーフィングやアクティブラーニングなどの教育手法により実践力の向上を図っています。留学生は、フィンランドの看護教育を体験することで、このようなシミュレーション教育の重要性を感じるとともに、日本の看護教育のよい点にも気づくことができていました。その一つが患者様への細やかな心配りです。演習で心電図を装着する際にタオルをかけることは、日本で看護学を学んでいる学生にとっては自然にできる配慮ですが、フィンランドの看護学生にとっては他国からの留学生との演習を通して初めて気づくことでした。互いの国の文化や価値観を知り、看護学を相互に学びあう機会を得ることも本国際交流活動の意義であると考えます。

また、メトロポリア応用科学大学では、学生団体Metka所属の学生チューターが留学生生活をサポートしてくれます。フィンランドの文化や学生生活の紹介、キャンパスや自由時間の活動に関する情報提供、各種学生イベントへの参加など、留学生が安心・安全に留学生活を楽しめるよう支援してくれています。



留学後には、2025年10月27日(月)に、メトロポリア応用科学大学の学生・教員と、徳島大学の留学生4名を含む「国際看護活動論」の履修学生と教員とで、オンラインコラボレーションを開催しました。学生による互いの国の文化や看護に関するプレゼンテーションの後、ディスカッションを行い、国際交流を深めることができました。

来年2026年11月には、メトロポリア応用科学大学とのMOU(基本合意書)更新(3回目)を予定しております。今後、保健学科の学部生だけでなく保健科学研究科の大学院生、教員も含めた、両大学における国際交流の活発化に向けた取り組みを進めていきたいと考えております。今後とも、ご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

退職された先生方からのメッセージ



医療法人 富田病院 理事長
元徳島大学大学院医歯薬学研究部 看護学系 教授
徳島大学名誉教授

睦眉会会員の皆様におかれましてはお元気で活躍のことと存じます。私は、平成24年4月、二宮恒夫先生の後任として、子どもの保健・看護学分野の教授となりました。そして、徳島大学病院 子と親のこころ診療・学習障害センター長および てんかんセンター長として診療を行い、子どものこころと身体の健康を見守ってまいりました。この度、令和7年3月末に定年退職いたしました。

現在は、美波町の医療法人富田病院で理事長・小児神経内科医として、地域医療に携わっております。また徳島大学病院においても、引き続き診療を行っております。近年、発達障害、特に学習障害を有する子どもの支援に対するニーズが高まってきております。個々のニーズに応じたアセスメントや合理的配慮など、教育と医療の協働で、少しでも多くの子ども達が、

森 健治



よりよい環境で個別の特性に応じた支援を受けることが出来るように、粉骨砕身の努力をしています。

富田病院は、1964年に開設し、精神科病床数144床（指定病床数10床）で精神医療福祉の向上に取り組んでいます。療養病棟での精神疾患を有する患者さんの治療を中心とし、地域に根ざした診療とケアを行っております。地域の皆様が安心できる診療とケアのために、心温まる医療の提供を目指しております。一緒に働いてくださる医療スタッフ（特に看護師）を募集中です。お気軽にお声掛けください。

最後になりますが、睦眉会会員の皆様の益々のご発展をお祈り申し上げます。

医療法人真和会 おかだレディースクリニック
元徳島大学大学院医歯薬学研究部 看護学系 教授
徳島大学名誉教授

睦眉会会員の皆様におかれましては、お元気で活躍のことと思います。2010年3月に山野修司先生の後任として着任し、2025年3月末に定年退職いたしました。在職中は、先生方、事務職員の皆様には大変お世話になりました。この間、学部学生や大学院学生の教育、更年期医療を中心とした研究、産婦人科医としての診療にどっぷりと浸かることができ、満足した15年間を過ごすことができました。

5月の連休ぐらまでは、大学から持って帰った荷物を片付けたりして、時間の流れもゆっくりで、こんなにのんびりしていいものかと思案していました。しかし、今は何かと頼まれることも多くなり、時間の流れが早くなり、元に戻ってきた感じです。現在は、佐古にあるレディースクリニックに勤務していますが、充実しており自分なりに満足した臨床ができています。大学病院のときから引き続いて来てくれる患者さんからは、「大学の時よりも生き生きとしていますね」と言われます。以前は診療が終わっても会議や講義が

安井 敏之



あり、時間を気にしながら診療しており疲れてみえたのかもしれない。改めて患者さんから教えられることも多く、なぜそんなことが起こるのかと疑問に思って色々調べることが多くなり、何となく研究心に火がつきそうになることもあります（慌てて消えています）。また、多くの患者さんが更年期障害、月経困難症、月経異常で悩まれていたことを知り、自分の持てる知識を最大限に発揮して診療に取り組んでいます。こじんまりとしたクリニックですが、受診される患者さんが多く駐車場でもお待ちいただくこともあり、心苦しく思っています。待ち時間を減らしたり、待ち時間を有効活用できる工夫を考える日々です。

今後も、これまで大学で研究してきたことを地域医療に活かせるように頑張りたいと思っています。最後になりましたが、睦眉会会員の皆様の益々のご発展を祈念しております。

令和7年度 徳島大学睦眉会総会報告

日 時：令和7年7月10日（木） 18：30～
 場 所：徳島大学医学部 第二会議室
 形 式：対面およびZoomによるハイブリッド会議
 参加者：23名



総会次第

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 議案審議
 - (第1号議案) 令和6年度事業報告・役員会報告
 - (第2号議案) 令和6年度会計報告・会計監査報告
 - (第3号議案) 令和7年度事業計画案
 - (第4号議案) 令和7年度予算案
4. 閉会の辞

(第1号議案) 令和6年度 事業報告

1. 保健学科/大学院保健科学研究科 国際交流基金への寄付金贈呈
2. 災害等学生支援基金として積み立て
3. 入学式出席（会長）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 令和6年4月5日
4. 睦眉会主催新入生歓迎昼食会の開催・・・・・・・・・・ 令和6年4月5日
5. 徳島大学びざん会（同窓会連合会）ニューズレターへの掲載・・・・・・・・ 令和6年5月、12月
6. 令和6年度睦眉会総会の開催（対面）・・・・・・・・・・ 令和6年7月14日
7. 第14回睦眉会主催講演会の開催（対面）・・・・・・・・ 令和6年7月14日
 講師：藤谷順三 先生
 （徳島大学大学院医歯薬学研究部 地域運動器・スポーツ医学分野 特任准教授）
 演題：「ピラティスによる腰痛の運動療法」
8. 徳島大学びざん会（同窓会連合会）交流会「徳島びざん会」への出席（理事）
 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 令和6年10月10日
9. 徳島大学びざん会（同窓会連合会）交流会「関東びざん会」への出席（会長）
 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 令和6年11月10日
10. 睦眉会会報（第24号）の発行・・・・・・・・・・・・・・・・ 令和7年2月20日
11. 卒業式・医学部各賞授与式出席（会長）・・・・・・・・ 令和7年3月25日
12. 卒業・修了記念品の贈呈・・・・・・・・・・・・・・・・ 令和7年3月25日

(第1号議案) 役員会報告

1. 役員会・総会開催状況（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

年度	回数	開催日	場所	参加人数
R.6	1回	令和6年5月30日(木)	医学部第二会議室・Zoom ハイブリッド会議	22名
	2回	令和6年7月2日(火)	医学部第二会議室・Zoom ハイブリッド会議	34名
		令和6年7月14日(日) (令和6年度睦眉会総会)	徳島大学病院 日亜ホール ホワイト(対面)	36名
	3回	令和6年8月1日(木)	医学部第二会議室・Zoom ハイブリッド会議	24名
	4回	令和7年2月6日(木)	医学部第二会議室・Zoom ハイブリッド会議	28名

2. 各種委員会開催状況

委員会名	開催日	場所	参加人数	
会報委員会	1回	令和6年9月5日(木)	医学部第二会議室・Zoom ハイブリッド会議	13名
	2回	令和6年11月15日(金)	Web会議	13名
	3回	令和6年12月17日(火)	Web会議	11名
	4回	令和7年1月14日(火)	Web会議	10名
ホームページ委員会	随時		3名	

3. 役員会・委員会における主な協議事項

- 1) 睦眉会総会について
- 2) 睦眉会役員改選について
- 3) 睦眉会会報の発行について
- 4) 睦眉会の役員の委員会活動について
- 5) 徳島大学びざん会（同窓会連合会）への協力について
- 6) 保健学科・保健科学研究科国際交流基金への寄付金贈呈について
- 7) 災害等学生支援基金について
- 8) 入学記念品贈呈について
- 9) 卒業・修了記念品贈呈について

* (第1号議案) 令和7年度 事業報告・役員会報告は、すべて承認された。

(第 2号議案)

● 令和 6 年度 睦眉会 会計報告 ●

(令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日)

一般会計 【収入の部】

(単位 円)

項目	予算額	決算額	増減額
前年度繰越金	3,463,101	3,463,101	0
本部会費(131名分)	2,620,000	2,620,000	0
寄付金	0	10,000	10,000
貯金利子	25	4,849	4,824
収入合計	6,083,126	6,097,950	14,824

【支出の部】

(単位 円)

項目	予算額	決算額	増減額
総会費用	70,000	65,258	△ 4,742
印刷費・送料(会報代を含む)	1,600,000	1,627,094	27,094
会議費	300,000	307,301	7,301
慶弔費(卒業記念品、退職教員記念品代を含む)	800,000	741,041	△ 58,959
保健学科/保健科学研究科の国際交流基金への寄付金	100,000	100,000	0
備品費(パソコン関係)	0	50,000	50,000
災害等学生支援基金への積立金	100,000	100,000	0
会報委員会活動費用	70,000	48,625	△ 21,375
事務局運営費	200,000	200,000	0
雑費	50,000	52,554	2,554
支出小計	3,290,000	3,291,873	1,873
予備費	2,793,126	0	△ 2,793,126
次年度繰越金	0	2,806,077	2,806,077
支出合計	6,083,126	6,097,950	14,824

特別会計 【収入の部】

(単位 円)

項目	予算額	決算額	増減額
前年度繰越金	200,000	200,000	0
災害等学生支援基金積立金	100,000	100,000	0
収入合計	300,000	300,000	0

【支出の部】

(単位 円)

項目	予算額	決算額	増減額
災害等学生支援事業	0	0	0
予備費	300,000	300,000	0
支出合計	300,000	300,000	0

令和 7 年 3 月 31 日 会計 高橋 久美

● 会計監査報告 ●

令和 6 年度会計報告書を監査いたしました。
会計処理は適正に、正確に処理されていることを証明いたします。

令和 7 年 5 月 22 日 監事 森 さゆり
監事 堤 理恵

* (第 2 号議案) 令和 6 年度 睦眉会会計報告・
会計監査報告は、すべて承認された。

(第 3 号議案)

● 令和 7 年度 事業計画 ●

- 保健学科/大学院保健科学研究科 国際交流基金への寄付金贈呈
- 災害等学生支援基金として積み立て
- 入学式出席(会長) 令和 7 年 4 月 7 日
- 睦眉会主催新入生歓迎昼食会の開催 令和 7 年 4 月 7 日
- 徳島大学びざん会(同窓会連合会) ニュースレターへの掲載 令和 7 年 5 月、11 月
- 令和 7 年度睦眉会総会の開催(役員会によるみなし総会) 令和 7 年 7 月 10 日
- 徳島大学びざん会(同窓会連合会) 交流会「徳島びざん会」への出席(会長他) 令和 7 年 10 月 9 日
- 徳島大学びざん会(同窓会連合会) 交流会「近畿びざん会」への出席(会長) 令和 7 年 11 月 30 日
- 睦眉会会報(第 25 号)の発行 令和 8 年 2 月 20 日頃
- 卒業式・医学部各賞授与式出席(会長) 令和 8 年 3 月 23 日
- 卒業・修了記念品の贈呈 令和 8 年 3 月 23 日

* (第 3 号議案) 令和 7 年度 事業計画案は、提案通り可決された。

(第 4 号議案)

● 令和 7 年度 睦眉会予算 ●

(令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日)

一般会計 【収入の部】

(単位 円)

項目	前年度予算額	今年度予算額	増減額
前年度繰越金	3,463,101	2,806,077	△ 657,024
本部会費(132名分)	2,620,000	2,640,000	20,000
貯金利子	25	300	275
収入合計	6,083,126	5,446,377	△ 636,749

【支出の部】

(単位 円)

項目	前年度予算額	今年度予算額	増減額
総会費用	70,000	30,000	△40,000
印刷費・送料(会報代を含む)	1,600,000	1,300,000	△300,000
会議費	300,000	300,000	0
慶弔費(入学・卒業記念品、退職教員記念品代を含む)	800,000	800,000	0
保健学科/保健科学研究科の国際交流基金への寄付金	100,000	100,000	0
備品費(パソコン関係)	0	150,000	150,000
災害等学生支援基金への積立金	100,000	100,000	0
会報委員会活動費用	70,000	50,000	△20,000
事務局運営費	200,000	200,000	0
雑費	50,000	50,000	0
支出小計	3,290,000	3,080,000	△210,000
予備費	2,793,126	2,366,377	△ 426,749
支出合計	6,083,126	5,446,377	△ 636,749

特別会計 【収入の部】

(単位 円)

項目	前年度予算額	今年度予算額	増減額
前年度繰越金	200,000	300,000	100,000
災害等学生支援基金積立金	100,000	100,000	0
収入合計	300,000	400,000	100,000

【支出の部】

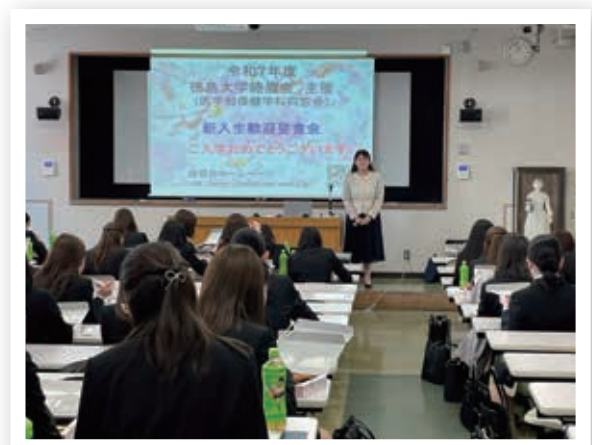
(単位 円)

項目	前年度予算額	今年度予算額	増減額
災害等学生支援事業	0	0	0
予備費	300,000	400,000	100,000
支出合計	300,000	400,000	100,000

* (第 4 号議案) 令和 7 年度 睦眉会予算案は、提案通り可決された。



令和 7 年度 睦眉会総会
(対面とZoomのハイブリッド開催)



令和 7 年度 睦眉会主催
新入生歓迎昼食会



令和7年度 睦眉会役員

(2025年 4月 1日～)

役職		氏名	所属	勤務先	
名誉会長		奥田 紀久子	学科長	徳島大学医学部保健学科長 (徳島大学大学院医歯薬学研究部)	
会長		久米 博子	看	徳島大学病院	
副会長		三木 こずえ	看	徳島大学病院	
		天野 雅史	放	徳島大学病院	
		佐藤 雅美	検	徳島大学病院	
		坂本 理美子	助	徳島大学病院	
		理事		梅野 真由美	検
佐々木 幹治	放			徳島大学大学院医歯薬学研究部	
会計	高橋 久美			看	徳島大学大学院医歯薬学研究部
総務	橋本 浩子			看	徳島大学大学院医歯薬学研究部
富永 正英	放			徳島大学大学院医歯薬学研究部	
安藝 健作	検			徳島大学大学院医歯薬学研究部	
竹林 桂子	助			徳島大学大学院医歯薬学研究部	
理事		藤村 ひとみ	看	徳島大学病院	
		戸崎 美鈴		徳島大学病院	
		米田 好美		四国大学看護学部	
		明石 晃代		徳島大学病院	
		栗本 佐知子	放	四国大学看護学部	
		石川 貴之		徳島大学病院	
		山田 健二	徳島大学病院		
		板東 要太	徳島県立中央病院		
		成澤 裕子	検	徳島大学大学院医歯薬学研究部	
		藤野 恵		徳島大学病院	
		田中 真弓		徳島県立中央病院	
		江原 翔		徳島市民病院	
		原田 美佐子	助	みさ子助産院	
		大西 真理子		徳島大学病院	
佐藤 浩子	徳島大学大学院医歯薬学研究部				
監事		堤 理恵	看	徳島大学大学院医歯薬学研究部	
		森 さゆり	検	徳島大学病院	

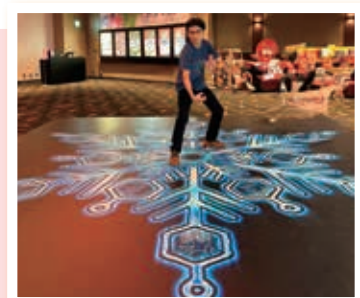
編集後記

卒業生の皆様、お元気にお過ごしでしょうか。第25号の会報発行にあたり、会報委員会の皆様をはじめ、ご執筆いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

令和7年は大阪・関西万博が開催され、政治では初の女性総理が誕生する等、様々なニュースがありましたが、私にとっての一番のニュースは何とんでも大好きな「鬼滅の刃」の映画が公開されたことです。前回の映画から5年、そしてアニメで劇場版の公開が発表されてから1年、待ちに待った映画は素晴らしいの一言に尽きる作品でした。圧倒的な映像美、声優さん達の迫真の演技、聴き入ってしまう音楽、大迫力の戦闘シーン、そして思わず涙する感動のストーリー、魅力を数え上げればきりがありません。一ファンとして

これからも作品を楽しみ、応援していきたいと思っています。

最初の鬼滅の映画が公開された頃に本格的に流行し始めた新型コロナウイルス感染症も世間的には落ち着いてきたように思われます。しかし依然として陽性になる患者さんはいらっしゃいますし、私も8月に2回目のコロナ陽性となってしまいました。会員の皆様におかれましても、ご自愛専一にて精励くださいますようお願い申し上げます。



睦眉会会報委員 江原 翔

徳大ニュース

1 徳島大学公式ファンクラブ『縁側キャンパス』会員募集中です

地域社会との結びつきを深め、地域中核の役割を果たすことを目指して、徳島大学公式ファンクラブ『縁側キャンパス』を設立しました。同窓会の皆さまをはじめ本学にゆかりがある全ての方に下記QRコードよりご登録いただくことができます。

『縁側キャンパス』では、会員サービスとして会員限定ウェブサイトを開示しており、卒業生・修了生へのインタビューの記事や学生課外活動団体からのお知らせといった記事のほか、本学に関するお役立ち情報などを掲載しています。



2 令和7年度徳島びざん会交流会及び近畿びざん会交流会を開催しました

びざん会は、各同窓会・支部の皆さまへ本学の活動を報告するとともに相互の意見交換を目的として開催しております。徳島びざん会（開催地：徳島県）は10月頃、近畿びざん会（開催地：大阪市）及び関東びざん会（開催地：東京都）は毎年近畿と関東で交互に11月頃に開催しています。

本年度は、徳島びざん会交流会を10月9日、近畿びざん会交流会を11月30日にそれぞれ開催しました。多数の同窓生の皆さまが交流を楽しまれました。

令和8年度は徳島びざん会及び関東びざん会を開催する予定です。詳細は夏頃に本学HP「徳島大学びざん会」ページ（下記QRコード参照）にてご案内します。お近くにお住まいの同窓生の皆さまはぜひご覧ください。

3 TOKUSHIMA UNIVERSITY GIVING CAMPAIGN 2025のご報告

GIVING CAMPAIGNとは、国公私立大学・大学生の学生団体活動の支援を目的とした、大規模なオンラインチャリティ

イベントです。本学学生団体の取組を全国に向けて発信することにより、各企業をはじめとした支援者による支援金が参加学生団体へ分配される仕組みです。

本学では今回で4回目の開催で、本年度は50超の学生団体が参加しました。10月の10日間の開催期間において、卒業生の皆さまをはじめ14,439人からの応援と温かいメッセージが寄せられました。

また12月には感謝の会を開催し、イベントに協賛いただいた企業と参加学生が交流しました。

4 令和7年度大学祭（第73回常三島祭、第41回蔵本祭）を開催しました

令和7年度大学祭を開催しました。常三島祭、蔵本祭ともに、学内外から足を運んだ来場者が、ステージ企画や模擬店を楽しんでいました。

また、徳島大学基金では、両大学祭の期間中に特設ブースを設置しました。多くの方にお立ち寄りいただき、本学における寄付の具体的な活用事例や取組に興味を持っていただいた様子でした。これらの活動、取組にご協力いただき誠にありがとうございました。

5 文部科学省「令和6年度地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に採択されました

本学はJ-PEAKSに採択され、本年度より事業を開始しています。本学に集結した4つのイニシアティブ「光工学」「慢性炎症研究」「栄養学」「情報科学」の知の融合を源泉とし、基礎研究と国内外でのスタートアップを核とした社会実装の循環経路を確立し、創造的超高齢社会の実現に資するイノベーションを生み出し続ける研究大学へと発展することを10年後のビジョンとしています。

ビジョン実現に向け、1）研究特区の設置による「研究力強化」、2）事業化、スタートアップ創出・育成に最適化された研究開発マネジメントによる「産学連携・イノベーション創出」、3）徳島県民の健康改善と産業創出への貢献による「地域連携」、これらを柱として大学改革に取り組んでまいります。

徳島大学公式SNSと各種サイトのご案内

徳島大学公式ファンクラブ『縁側キャンパス』



徳島大学びざん会 Facebook



徳島大学びざん会



徳島大学公式X

